

バイブルスタディ Pastor JD Farag (2018.07.29)

エペソ人への手紙 6:4 「子育ての難しさ」

.....

今日の聖書箇所はエペソ 6章4節です。

使徒パウロは聖霊によって、エペソの教会にこう書いています。

父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。

むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。

神のみことばの中で共に過ごす時間、神の祝福を求めて祈りましょう。

愛する天のお父様、あなたが、私たちの、完璧な天におられる父であられることを感謝します。

今この時間、あなたが必要です。

いつもして下さるように、私たちの心を静まらせて下さい。

それは、あなただけができることですから。

聖霊によって、あなたに集中できますように。

主よ、私たちの人生にあなたがお語り下さい。

感謝します。

イエスの御名によって。アーメン

今日は、子育ての難しさについてお話したいと思います。

これは、皆さんに忍耐を持って付き合ってもらいたい、とお願いしなければならない教えの一つで、重要な節なので、今日はこの一節だけを取り上げ、最善を尽くして、この深いみことばを紐解き、正しく分かち合っていこうと思います。

まず、話を進める前に、牧師として伝えておくべき非常に大切なことがあるのですが、今日の話の全てを私の言葉としてではなく、どうか聖霊の導きに従って聞いて下さい。

私たちが、自分の力や裁量や能力で良い子育てをしたり、みこころにかなった子育てをすることは不可能ですから、今日のメッセージは、子育てのスキルを教えるのではなく、むしろ、このみことばが語っている知恵に導いていくものです。

私は、子育てのエキスパートとして気取るつもりは毛頭ないことを知って下さい。

私と妻は子育てに関してたくさん間違いを犯しましたが、子育てという旅路はまだ継続中であり、今もミスを犯し続けていることを、まずもって認めなくてはなりません。

子育てで上手くいっている事はどんなことでも、ただ神の恵みと憐みが、親だけではなく子供たちに、より大きく現わされていることを学んでいるのです。

私と妻の事で言えば、私たちが親としての失敗のツケを払わず、誠実でない時も、神は誠実でいて下さいます。

やり直しができるものではないのかもしれないけど、それができればどんなに良いかと思いますよ。

メッセージに入る前に、4節でパウロが言っていることの説明と適用を提示することは重要です。

パウロは、なぜ、「父たちは子供を怒らせてはならない」と言ったのか。

なぜ、“父と母”ではないのか。

答えは2つ。

① 中東の文化では、家庭の中の最終的権威は父親にあるから。

今でもそうです。

それが、子供たちに対する厳しい権威主義を増長させるのです。

私も成長する中で経験しましたが、父は私にとってもきつくて、厳しくて、私と繋がろうとしませんでした。

これが大きな理由です。

② 母親にとって養育は自然なことであり、子供たちをこのように怒らせることは少ないから。

“母親は子供たちを怒らせない、父親は養育しない”と言っているのではありません。

エペソ 6:4 の勧めを、父親と母親の両方への適用として捉えないのは間違いであり、「両親よ。自分の子供たちを怒らせてはいけません。」と読んで支障ないと思います。

4 節が語っているのは、神を崇め、主の訓戒によって子供たちを養育し、教育し、躾けるということです。

ここの訳で説明すべきことは、“exasperating”（怒らせる）、訳によっては“provoking”（挑発・刺激する）という言葉について。

殆どの訳では、“do not provoke your children”（子供たちを挑発・刺激してはならない）となっています。（*新改訳、新共同訳、口語訳は「怒らせる」）

だけど、ここには「子供を怒らせるような対応の仕方」という意味が含まれており、私は“exasperate”（苛立たせる）の方が好きです。

特に父親は、子供をイライラさせたり、挫折させたり、憤慨させたりする傾向があって、“exasperate”の方がそれをよく表しているからです。

パウロがここで言っていることを、私たちが行くとどうなるでしょう。

子供たちが苦々しくなり、親に腹を立てるのも時間の問題ですね。

興味深いことに、パウロはコロサイ書の中で、エペソ 6 章を繰り返しています。

夫と妻に関することで、夫は妻を愛し、妻は夫を敬うという箇所。

子育てについても繰り返していますが、コロサイ教会には少し違うことを言っています。

父たちよ、子供たちを苛立たせてはいけません。

その子たちが意欲を失わないようにするためです。（コロサイ 3:21）

子供を現実的ではない立場に置いたり、更には不可能な期待をかけることによって、彼らを苦しめることがあるということを、私たちは正直に認めなければならないと思います。そうですね。

確かに、私たちの目的は良いものかもしれませんが。

しかし実際には、正しいことを間違った方法でやっちゃっている。

つまり、よくあることですが、親が子供を通して、子供を自分の代理にして、自らの人生を再び生きようとしているのです。

明らかに、これは深刻な問題です。

根本的な問題は、わが子は失敗すると決めつけてしまうこと。

親であるあなたのやり方が、神が与えた方法ではないがゆえに、なのですが。

あるコメンテーターの説明で私のお気に入りなのが、「賢い父親は、子供を型にはめるのではなく、開放する役割が自分にあることを理解している。」

言い換えると、私たちは、神が子供をどのように造ったかを注意深く観察する特権を持つ父親であり、そうして、受胎の瞬間から神が子供の中に築いているものを解き放っていくのです。

全ては神の栄光のために。

子供が一人以上いる人は分かると思いますが、子供たちの違いは本当に面白いですね。

私の長男について言えば、彼は興奮状態にあるため、“活動警報発令中”のようです。

私はこれが好きじゃなくてね。

だってそれは、“もう寝られない” という意味ですから。

ほぼ 2 年後に次男のリバイが生まれましたが、彼の気性は長男とは全く逆です。

彼は誕生した直後に笑ったんですよ。

私は啞然として、妻に「彼にまずいことがあるんじゃないか？」と言ったくらいです。

リバイはハッピーでのん気、大人しくて愛らしい子。

実際、“ラブリー・リバイ”と呼んでいます。

本人は嫌がりますが。もう 18 歳になりますから。

でも今でも、彼の友達の前でもそう呼びます。そう呼ぶのが大好きなのです。

長男は全く違って、非常に敏感で、一つのことに集中できます。

どこからそういう性質を受け継いだのか分かりませんが、とにかく、とても敏感で、活動的。

9 か月で歩いたんですよ。

そしたら“子供が 9 か月で歩くなら、よく見張っているように“と多くの本に書いてありました。

私が言いたいのは、神が与える子供たちは、一人ひとりが違うように造られているということです。

だから、この有名なみことばがあるのです。

若者をその行く道にふさわしく教育せよ。

そうすれば、年老いても、それから離れない。(箴言 22:6)

残念なことに、このみことばは大半が正しく理解されておらず、聖書教師の間で非常に議論されてきました。

私は色々な教えを聞き、あらゆる本を読んで来ましたが、この議論には 2 つの面があります。

① “その行く道にふさわしく” 子供に何をしなければならないのか。

② “子供が年老いた時に、それから離れない” とは何を意味するのか。

私は、“主の訓戒に従って、子供の特性に応じて教育しなければならない” というのが正しい理解だと思います。

大変興味深いことに、原語では、赤ちゃんが誕生した時に助産師が行うこと、すなわち、誕生直後に気道を確保する内容の意味を含んでいるのです。

つまり、私たちは、その子の特性に合わせて教育する方法を作り出さなければならないということです。

この子に合った教育と、あの子のためのものは違うのです。

この箴言の約束は、“私たちがその子に合わせた教育をするなら、子供が年を取った時に、主の道を歩み続けている” ということです。

詳訳聖書は箴言 22:6 を説明的に表していて、「子供に固有に与えられている賜物や特性を保ちながら、その行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」

これが約束。

ここでまた、問題点があります。

それは、箴言 22:6 は、その子固有の特性に合った事を何でもさせるという意味ではなく、むしろ、彼らを教育し、弟子とするという意味だということ。

私が“弟子”(disciple)という言葉を使うのは、これが“discipline”(訓練、鍛錬)という言葉から来ているからです。

ところで、ヘブル 12:5-11 に同じ言葉があって、そこでは“discipline”(訓練する)の改正された表現で、“chastening”(懲らしめ、しつけ)と訳されています。

「わが子よ、主の訓練を軽んじてはならない。」(ヘブル 12:5)

(*別訳は「懲らしめ・しつけ」; 6-11 も同様)

My son, do not despise the chastening of the LORD (NKJV)

私たちは主の方法で子供を正し、導き、教育し、弟子とするために訓練をするべきなのです。

そして、子供の特性に合わせて教育方法を個別化するべきです。

主のやり方で正し、導くことはそれぞれの子供で違っていて、その子にはうまくいっても、別の子にはそうではないから。

私が初期に学んだことで、今でもその途中にあるのですが、とても興味深いのは、子供にはそれぞれ異なる学習スタイルがあるということ。

一般のクラス環境では上手くやっけていけない子供がいるのです。

運動感覚型学習者はいつも動いていないといけません。

触覚型学習者は触れることで学ぶ。

視覚型学習者もいます。

つまり言いたいのは、子供の特性を発見し、理解し、見極めなければならないということ。

そして、その子が持っている能力を学ばなければなりません。

そうでないと、あなたが苛つくだけでなく、結局は子供にもフラストレーションがたまってしまう。

その子に全く合わないやり方で教育するなら、そうなります。

長男がとても幼い頃、**Awana**（未就学児から高校生までの国際的な聖書教育プログラム）の特別クラスに入っていました。

私が本土で初めて開拓し牧会した教会は **Awana** に登録していて、彼をそこに連れて行く時は聖句を暗唱しないといけません。

1週間かけて練習します。

私が「さあ。座って。この節を覚えよう！」

すると、こんな感じ（固まった表情）で私を見て、「座らないといけなくて言ったの？」

「そうだよ。静かに座って。そうしたら、この節を覚えられるよ。」

彼の思いの全ては「つまり、動けないってこと!?!」

「ああ。ここに座って。まず覚えようよ！」

彼はこのようにして覚えたことは、一度もなかったんです。

だって、彼はそのように造られていないから。

このことに関して、私たちよりも前に、親として乗り越えて下さっていた方々に、また、これらの事について書かれた本に感謝します。

彼は座って学ぶようなタイプではなく、学ぶ時にはトランポリンで飛び跳ね、最高速度で庭を走り回らなければならない子であることが分かりました。

そうすれば、どんなみことばも、与えられたものは全部覚えた!!

私たちは彼をあちこち走り回らせて、みことばを覚えさせました。家庭礼拝の時です。

そうやって、彼は覚えてきたのです！

子供たちが小さかった時、彼らと一緒に家庭礼拝が億劫だったのは、恐らくこのためだと思います。

一人は「こんな所で座ってなんかいられない！」と、刺激が必要で活発に動いていないといけません。

もう一人は「ウロウロしながらなんて、覚えられないよ！」と、じっと静かに座っていないといけません。

どうすればいいのでしょうか。

私たちは、本当に工夫しなければなりませんでした。神はそのための恵みを与え続けて下さいます。

神から与えられる子供は、それぞれ固有の特性を持っています。

私たちには3人の子供がいて、娘は今11歳です。

子供というのは、それぞれの違いだけではなく男女の違いもあって、男の子の“子育て記録”を全て捨てなければなりませんでした。

女の子は完全に話が異なるからです。

今でも学んでいるところなので、私たちのために祈って下さい。

父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。

(エペソ 6:4)

Fathers, do not exasperate your children; instead, bring them up in the training and instruction of the Lord. (NIV)

“instead” (代わりに、むしろ) という言葉に関して話さなければ肝心な部分を逃してしまうので、この言葉に注目して下さい。

私にとってこの言葉は、解説だけでなく、適用も教えてくれます。

親が満足するために子供にプレッシャーをかけたり、強要したりする“代わりに、むしろ”、主を喜ばせるために子供を教育し、指導するべきなのです。

悲しいことに多くの親たちが子供に、過酷なほど完璧さを要求していますが、それは、彼らに不適切な感情を起こさせ、そして遂には、非常に苦々しい、怒りの感情となって残ります。

なぜなら、そういう子供は行いを基に、自分が受け入れられているかを判断することになるから。

そのような子は愛されていると感じないで、“代わりに、むしろ” 失望することになるから。

親の要求を満たすことは、決してできないからです。

ところで、子供は親を喜ばせたいのですよ。そうでしょ？

親は子供が自分たちの思い通りに動くことを要求しますが、その事で多くの間違いを犯してしまいます。

そうすることで神の強い願い、つまり、子供が神の大きな喜びであることが、しばしば犠牲にされるからです。

一体、どれだけの子供たちが親に、「ボク (ワタシ) には絶対にできないんだ…」と言っていることでしょうか。

B 評価をもらったら、「なぜ **A** ではないの!?!」、**C** 評価なら「**B** を取りなさい！」

これは決していいことではない。

神は子供を大いに喜びたいと彼らを創造し、密接に繋がっているのです。

子供は、私たち親から愛され、大切にされ、ほめられ、認められたいのです！

それが必要なのです！

子供は肯定されることが重要で、否定的なことよりも肯定的なことの方が影響が強く、肯定的なやり方で正しい方向に導く時、そうでない時よりも好意的に応えます。

私たちは子供を押さえつけたり、厳しくしたりしますが、それは良かれと思って、正しいことをしているつもりなのかもしれません。

だけど、子供に高い目標を達成させたいがために、間違った方法を取っているのかもしれないのです。

こう言うのを許して欲しいのですが、もしかしたら、“成功” の定義を見直す必要があるのではないのでしょうか。

あなたの子供にとって、どこがゴールですか？

人生で成功すること？ キャリアのある高級取りになること？ 一流の役職に就くこと？

これらは何も悪いことではありませんよ。

しかし、皆さんに聞きたいことがあります。

これは、大学に行き出した息子を持つ私が、自分自身に投げかけていた質問でもあります。

“私の成功の定義は何か”

それは、子供が主と共に歩んでいること。これが“成功”です。

「わが子に、医師や弁護士になるという高い期待をかけている！」

人々がなぜ弁護士になりたがるのか、私には分かりませんが。

と言っても、弁護士の皆さん、私はあなたを愛していますし、神があなたを愛し、祝福していますよ。

私がこう言えるのは、私がカーディーラーだからです。

ずいぶん前、本土にいた頃、私はミニストリーに関わっていましたが、ある人が来て、「カーディーラーが同時にクリスチャンなんてあり得ない。」と言ったのです。

だから、私は弁護士のことも言えるのですよ。

神が定義した究極の“子育ての成功”は、子供がイエス・キリストの救いの知識に至ること。

皆さんは子供に、将来こうなって欲しいという期待があるでしょうが、少なくともそれは、神の子育ての定義とは言えません。

子育てに関して、自分は家畜を追い立てている牧場主なのか、それとも、会衆を導いているキリストの牧者なのか、もう一度よく見直し、自身を吟味すべきだと思います。

わが子を無理矢理押し進め、怒らせ、刺激し、イライラさせていないか。

主の方法で導いているか。

その子の特性を発見し、見極め、そして主の方法に従って教育しているか。

「先生、そうですね。全て素晴らしい。でも、私の子はもう成長して、そんな機会はないんです。」

そうです。私も分かりますし、同じ気持ちです。

彼らは既に自分の人生を歩んでいる。

親である皆さんは、もう送り出したんだし、手遅れだと感じていることでしょう。

落ち込み、失望し、数え切れないほどの感情があるかもしれません。大きな罪悪感も。

自分が大失敗したとと思っているから、罪悪感がつきまとうのです。

皆さんを励ましたいと思います。

決して遅すぎることはありません。決してない。

神は忠実なお方です。

子供が何歳であろうとも、決して遅すぎることはないのです。

決して、絶対に、絶対に絶対に、自分の子供の事を諦めてはなりません。

たとえ彼らが、あなたからも主からも離れている典型的な放蕩息子、放蕩娘であっても、です。

私の個人的な経験をシェアして、メッセージを閉じたいと思います。

強情な息子や娘に関しては、祈っている親に勝るものはありません。

決まり文句のように手を握って「祈りには力がある！」と言っているのではありませんよ。違います。

今日、私は子供のために祈る親として、祈っている親の力の証を持って、皆さんの前に立っています。

強情な息子や娘のために、断食して祈る親に勝るものはないのです！

怒ってはいませんよ。

エペソ 6:4 は「牧師たちよ、集会を苛立たせてはいけません。」と書かれるべきだ、と思っているかもしれませんが。

私がそれをやっていたら許して下さい。

もう一つ。

可能な限り誇張のないように話したいのですが、私自身の父親としての個人生活、個人的経験を、この教えの中で再度分かち合う必要があると思います。

私は牧師である前に、何よりもまず父親です。

皆さんがそれを理解してくれますように。

この教会は、他の牧師を見つけることができますが、私の子は他の私を見つけることはできません。

子供のために心を合わせて祈り、彼らを無条件で愛するべきなのです。

あまり大げさにならないように言いますが、私が学んでいることの一つは、“子供がどうであれ、わが子を愛する”ということです。

皆さんが知っているかは分かりませんが、私たちは世界中のオンラインチャーチの人々から、たくさんの祈りのリクエストを受けていて、その内容には非常に心が痛みます。

子供のために祈りを懇願する親たちからの依頼がものすごく多いから。

娘や息子からつい最近、同性愛者だと告白され、彼らが生き方へ進もうとしている、既にその道に行っている。

どのように応えることができるでしょうか。 本当に。

スクリーンにみことばを映しますから、書き留めるか、自分の聖書を開いて読んで下さい。

本当に切に、そうして欲しいです。

これは子育てをしている中で、神が力強い方法で、私の人生に置いたみことばです。

ローマ 2 章 4 節。

神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導く (ローマ 2:4a)

「おまえを本当に何よりも愛しているよ。この事を乗り越えていこう。

私たちはおまえの前で絶対に扉を閉ざさない。決して見捨てない。

いつもおまえのためにここにいる。いつも愛しているから。」とあなたが言うところには無条件の愛があって、神の親切、神の恵み、神の愛は人を悔い改めに導くのです。

彼らを愛するというのは、その罪の行いをも受け入れることと同意語ではありません。

これが、親がつまずき、間違っている部分です。

確かに“厳しい愛”というのがありますが、時にそれは、愛ではなく厳しさが強調されていると思います。

あなたは子供への心からの愛で、彼の心を溶かすのです。

神は子供をそのように造られたのですから。

子供を愛し、子供のために祈る。

明らかに当たり前のように聞こえるでしょうが、皆さんに言いたい。

あなたがわが子のために熱心に祈り、無条件に愛するなら、あなたは彼らの人生の中に、主の善と神の恵みを見るのです。

祈りましょう。

天のお父様、みことばを感謝します。

今日は難しかったけど、良い教えでした。

主よ、特にここにいる人、また、オンラインで参加している心が折れている親たちのために祈ります。

彼らはとても打ちのめされていて、失望しています。

主よ、ただ祈ります。

素晴らしい特権を与えて下さった親である私たちを、あなたから授けられた子供たちと共に強め、励まし、祝福して下さい。

あなただけができるからです。

主よ、感謝します。

イエスの御名によって。アーメン

.....

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi